

銀座通内科クリニック ニュース

2023年3月号
あさひかわ福祉
生活協同組合
No.6



春の兆し

撮影地 鳥沼（富良野）
撮影日 2022年3月
撮影者 中川 克巳

2023年1月 みんなのカフェ銀座内ギャラリーにて写真展「中川克巳の世界」を開催

初めて銀座通内科クリニックへ行った時「また診てもらいたい、必ず来よう。」と思いましたが、目を見て、ゆっくりと話しかけてくれる先生にとてもかんげきしました。



染川 眞利子さん

銀座通内科クリニック職員さんとの「顔が見える関係」、萩原先生・仲谷先生、そしてベテラン看護師さんからのアドバイスにも心強く感じています。今年も変わらず繋がり大切にしながら、皆様の在宅生活の支援をさせていただきます。



訪問看護ステーション
「むらかみさん」
山崎 緋沙子さん



駒崎 タミさん

萩原先生にはいつもお世話になってます。今年で97歳を迎えますが、元気に過ごせるのは、先生にしっかりと健康管理をして頂いた賜物です。
先生のお顔は元気の源です。「百歳を目指します！」



千葉 淑子さん

病院や薬局に行く体力がなくなって、昨年末から銀座通内科クリニックの訪問診療と訪問看護ステーション「むらかみさん」の訪問看護を受けています。おかげで、ワクチンの接種も家で済ませ、お薬を届けてくれる薬局も探していただきました。助かっています。



おやきの富士屋
金井さん

いつもクリニック外来でお世話になってます。おいしいおやきを焼き続けられるのも、先生のおかげです。
これからも地域の皆様に甘い優しさをお届けできればと思います。

おすすめレシピ

さつま芋ごはん

- 【材料】4人分
- ・米 3合
 - ・さつま芋 小1本
 - ・みりん 大さじ1
 - ・酒 大さじ1
 - ・塩 小さじ1
 - ・ゴマ 適宜



①米は洗って30分以上浸水させ、水気を切る。さつま芋は約1cm角に切り、5分程水にさらした後、水気を切る。
②炊飯釜に米、調味料を入れ、3合の目盛りまで水を加えかき混ぜ、さつま芋をのせて炊飯する。炊き上がったら全体を混ぜて碗に盛り、ゴマをちらす。

編集後記

今号は、はじめて4ページ建て、見開きのインタビューに挑戦しました。診療を通して垣間見える「健康格差」への仲谷副院長の熱い思いを読者に伝えられたかなと自問自答しています。
インタビュー後、南看護師長が、『健康格差への処方箋』（千葉大学教授・近藤克則）を職員勉強会で紹介。健康格差を減少させるためにも、健康を保つためにも、社会環境の質の向上の一つとして、社会参加が大事であることを学びました。模索が始まっています。（太田）

銀座通内科クリニック

〒070-0033
旭川市3条通15丁目
銀ビル2F
P 指定駐車場あります



電話：0166-24-2233

* 休診日▶日曜/祝日

外来診療	月	火	水	木	金	土
9:00	萩原	萩原	仲谷	仲谷	萩原	萩原
12:00	仲谷	仲谷	(萩原)	仲谷	仲谷	萩原
14:00	仲谷	萩原	仲谷	休診	萩原	休診
17:00						

* 当院は在宅支援診療所です

訪問診療	月	火	水	木	金	土
午前	(萩原)	(仲谷)	萩原		(仲谷)	
午後		仲谷	萩原		仲谷	

あさひかわ福祉協同組合
お願ひ申し上げます

理事 萩原 信宏
専務理事 倉島 正
常務理事 柴山 祐子

理事 吉岡 正徳
仲谷 了
阿部 祐子
太田 元美
平 照治
山下 昌美
田中 秀幸
羽川 隆雄

院長 萩原 信宏
副院長 仲谷 了
看護師長 南 みゆき
看護主任 竹重 信子

事務職一同
看護職一同
運転手一同

銀座通り内科クリニック

今年もよろしくお願いいたします



昨年4月に仲谷了先生が副院長として着任され、医師複数化を実現できました。一昨年に続いて、新型コロナウイルスの感染防止の上で積極的な役割を果たして頂きました。それは、1万人近くもの人々との出会いにもなりました。

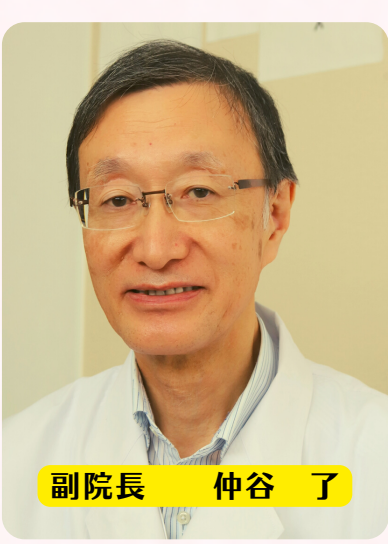
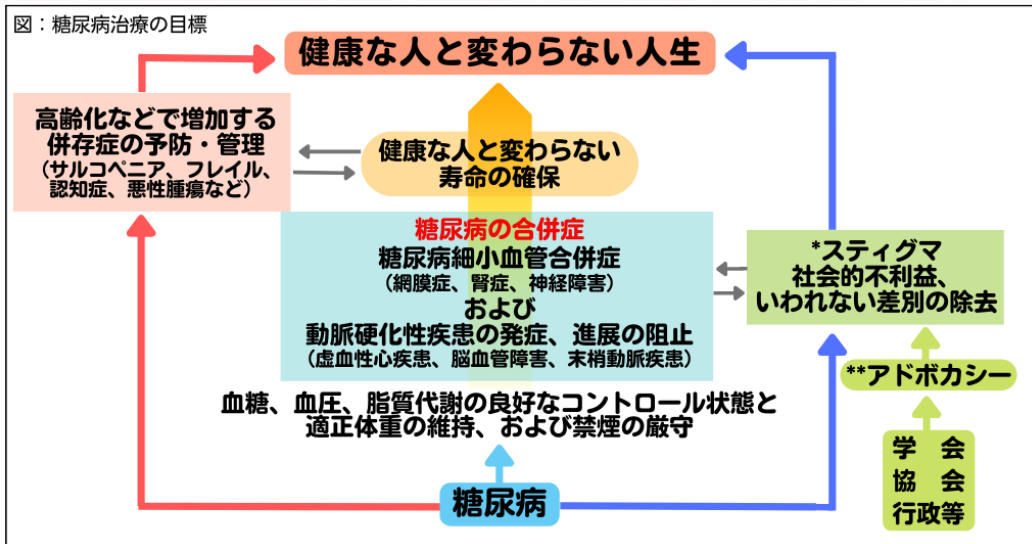
外來も増え、読書の合間に診療していたものが、本を手にする暇もなくなりました。「生きがい、健康、ふれあい」が医療をすすめる上で欠かせません。第3の居場所づくり（みんなのカフェ銀座）に、あさひかわ福祉協として、またクリニックとして、具体的対応について議論が待たれます。開設時から大切にしてきた「医

学医療の知識を市民のものに」の医療講座や、フレイル予防の「健康教室」の再開も課題になります。今年も、職員一同頑張りますのでよろしくお願いいたします。あさひかわ福祉協 銀座通内科クリニック院長 萩原信宏

仲谷了先生があさひかわ福祉生協への参加を表明し、銀座通内科クリニックの副院長に就任して今年で1年になります。2023年の幕開けにあたって、南みゆき看護師長が仲谷了副院長にインタビューしました。

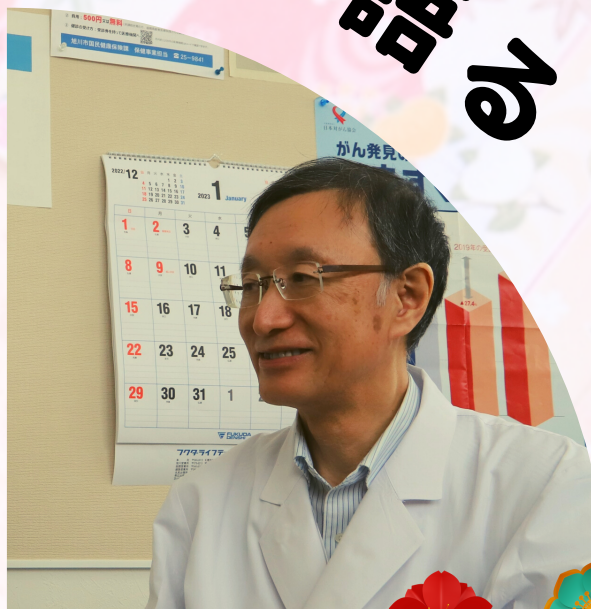
南 2023年は、長引くコロナや物価高騰で診療現場はますます大変になりそうですが、今年もよろしくお願いいたします。仲谷 「こちらこそよろしく願います。」

▼旭川医大卒後勤医協へ 南 あらためて仲谷先生の人となりを知ってもらうために、経歴から紹介したいと思います。先生は旭川医科大学のご出身ですね。仲谷 4期生です。南 卒業後すぐに、民主的医療運動に参加されたのですか。仲谷 『道北の医療変革』を掲げて設立された道北勤医協に研修医として参加しました。



副院長 仲谷 了

仲谷副院長大いに囁く



初春インタビュー

南 開院まもない一条通病院へ、です。仲谷 萩原先生にはその時から先輩の指導医としてご指導いただきました。▼治療目標変わった学会 南 先生が、これまで臨床の現場で感じてきたことなど聞かせてください。仲谷 多くの糖尿病の患者さんを診てきて、血糖コントロールを悪くしている患者さんがいっぱいいるんです。南 私たちが病気のことを考えて、食事や運動のアドバイスをして改善しない患者さんはいますよね。仲谷 そう。これまで、血糖コントロールがうまくいかないのは、教育や患者指導の仕方が不十分だ

からではないかと考えられてきました。ところが、最近、日本糖尿病学会の治療の目標が変わったんです。（図）南 そうなんですか。仲谷 昔は、糖尿病を治療して、合併症を予防して「健康な人と変わらない人生」へ、これ1本だったのが、今回は、高齢化などで起こるさまざまな問題の予防・管理が増えて、さらにもう1本増えたんです。南 図の右側の青い線ですね。仲谷 糖尿病の人は、食事や運動などの自己管理を怠ったダメな人というレッテルが貼られ、差別や社会的不利益（*スティグマ）を受けてしまっているんですね。南 受診したくても、糖尿病のことが職場に知られると仕事がなく

なってしまうので来られない患者さんとかいますね。仲谷 新しいガイドラインでは、糖尿病学会と糖尿病協会が合同で、糖尿病であることで受ける差別を除去し、糖尿病を隠さずに行われる社会をめざす活動（*アドボカシー活動）をする。これが増えたいですね。南 画期的ですね。▼病気の根っ子に貧困が 仲谷 そうです。同時に、食事や運動などの生活習慣が身につかなくて、糖尿病が悪化することの根っこには貧困の問題があると思います。南 どういうことですか。▼垣間見える貧困・格差 仲谷 生活習慣を身につける背景には、子どもの頃の家庭環境やそれまで受けた教育、職業や所得などの社会経済状況が関係しています。貧困や格差の問題も深く関わってきます。ダブルワークで朝の5時から夜9時まで働いている患者さん。夜勤専属や交代勤務で食事や服薬、インスリン注射が定期的



看護師長 南 みゆき

的に打てない患者さん。軽度の知的障害があるのに、気がつかれずに、職を転々として貧困にあえぎ、孤立している患者さん。南 健康格差は広がっていますね。仲谷 患者さんを通して垣間見える健康格差の実態を臨床の場から明らかにしていく必要があるのではないのでしょうか。それを社会と共有していくことも私たちの役割だと思っております。▼患者さんに寄り添って 南 先生が銀座通内科クリニックに着任された思いをお聞かせください。仲谷 数年前に、萩原先生の著書『人生100年への挑戦』を読ませていただきました。萩原先生が、何年たっても学ぶことを忘れず、夢をもち続け、さらにそれを実践している姿に感銘しました。前職の定年退職を機に、再びいっしょに働かせていただくことになって、あらためてご縁を感じています。地域のみなさんの思いに寄り添いながら、気軽にいろんな相談に乗れるような診療をめざしたいと考えています。南 ありがとうございます。

*スティグマ：糖尿病の方への「差別」「偏見」という意味。
*アドボカシー活動：擁護とか支援という日本語に言い換えられる。